

クルーズ船を取り巻く昨今の情勢

クルーズ船観光振興議員連盟幹事
参議院議員

大沼みずほ氏



顕著な伸び 取り込もう

港湾設備 一層の機能強化が必要

世界のクルーズ人口が急増しており、10年前の約2倍になっている。中でもアジア地域の伸びが顕著だ。

クルーズ船による外国人入国者数は、2015年は111・6万人（速報値）。「20年に100万人」の目標を前倒して達成した。訪日外国人全体でも、「20年に2千万人」の目標を達成し、さらなる伸びが期待される。

特に、外国の船会社が運航するクルーズ船の日本への寄港回数が急増している。だが寄港する港は西日本が多く、東日本は東京や横浜を除くと寄港実績が少なく、酒田港は外国船籍のクルーズ船の寄港実績はない。

クルーズ船を酒田港に受け入れる場合、港内の水深や岸

壁、背後地のスペースなどはほぼ条件を満たすが、港湾設備のさらなる機能強化、航行安全対策の検討といった課題が残る。そうした意味で、このたびの江島潔国土交通大臣政務官の酒田港視察は大変意義深いものだった。安心して寄港してもらえる態勢づくり

山形県は外国人にとつて魅力的な観光資源が多くあり、潜在力は高い。庄内だけでなく、村山、最上地域も巻き込んでの観光ルートの構築が必要だ。また、各種祭りの日程の調整等の課題に対し、やらなければならないことはまだまだある。

寄港誘致に向け、国、県、市町村が一体となつて県民挙げての取り組みがますます重要になります。なお一層の皆さまのご協力を願いたい。